

## ショートコメント vol.396 (2026年3月19日)

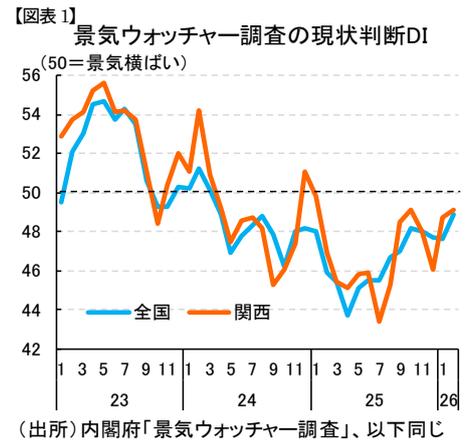
**テーマ：街角景気にみる中国の渡航自粛による影響**  
 ～景気全体への影響に対する見方はかなり緩和か～

### ●街角景気の直近の動き

26年2月の景気ウォッチャー調査の結果が発表され、現状判断DIは全国、関西ともにやや改善した(図表1)。

現状判断DIの改善要因については、主に気温の変化が指摘されている。月前半は例年を下回る寒さとなったことで、冬物商材の販売が増えた一方、後半には例年以上の暖かさとなり、春物商材の販売増につながったというものである。ただし、長引く物価上昇による節約消費は続いており、身の回りの商品を中心とした需要の停滞感に大きな変化はない。

関西の推移もほぼ全国と変わらないものの、前月比での改善幅がやや低調なのは、中国の渡航自粛による影響とみられる。2月は春節であり、中国人客の動きが関連業種での売上の変化に連動しやすいことから、全国に比べるとやや厳しい状況となった。

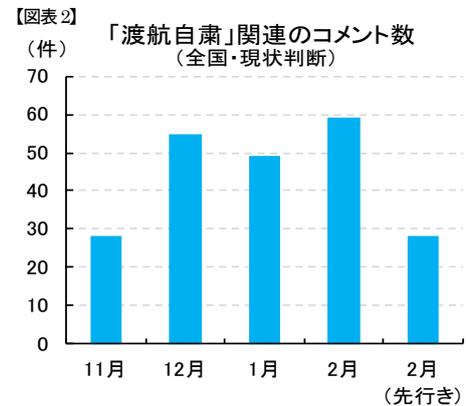


### ●「渡航自粛」関連コメントの推移

中国の渡航自粛による影響について、本調査で聴取している定性コメントの動向から判断すると、まずコメント件数は図表2のとおりとなっている。

渡航自粛の動きは11月中旬に始まったことから、11月のコメント数はまだ少なめであったが、12月になって大きく増える形となった。その後、1～2月にかけて50～60件前後での推移となるなど、一定の言及が続いている。ただ、2月調査の先行き判断での言及は大きく減り、現状判断の半分以下となっている。

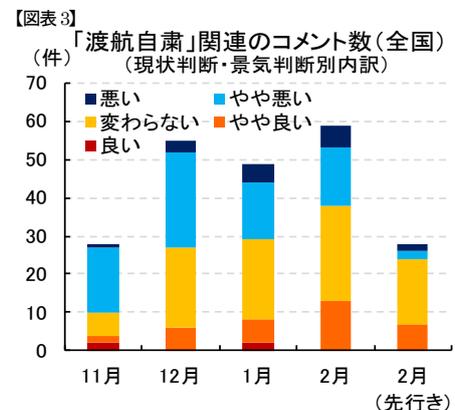
これが意味するのは、中国の渡航自粛による景気への影響の低下の兆しであり、一つの大きな変化といえよう。



### ●景気判断の変化

渡航自粛関連のコメントに付随する景気判断に注目し、その内訳をみても、徐々に「悪い(悪くなる)」、「やや悪い(やや悪くなる)」といった、悪化を示すコメントは減少傾向となっている(図表3)。

特に2月調査の先行き判断ではほとんどみられず、その大半が「変わらない」となっている。こうした傾向をみる限り、当初はかなりの懸念が集まった渡航自粛による影響も、一定の時間を経



※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。

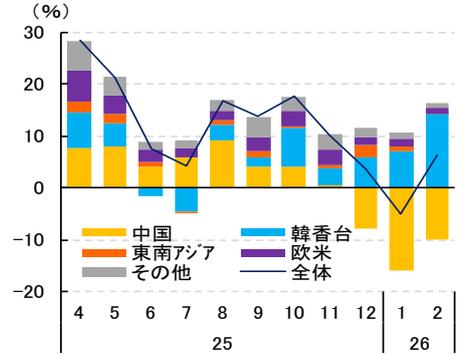
て、過度な不安が払しょくされた状況といえよう。もちろん足元も、一定の打撃は受けていることは間違いないものの、様々な要素によるリカバリーが奏功したものとみられる。

**●訪日客数の動き**

実際に訪日客数の動きをみても、中国人客の減少は続いているものの、直近2月は全体で前年を上回る動きとなっている（図表 4）。特に、韓国、台湾が大きく伸びていることで、全体をけん引している様子がみられる。1～2月の状況を勘案すれば、今後も全体で小幅のプラスを維持することは可能といえよう。

ただ、世界の観光市場を取り巻く環境は、中東情勢の緊迫化によって不透明感を増している。燃料価格の高騰による旅行費用の上昇といった価格面の影響に加え、空港などでのテロの危険性が高まる事態も想定される中、引き続き今後の推移が注目されよう。

【図表 4】  
訪日客数の推移（全国、地域別内訳）  
（%）



（出所）JNTO（日本政府観光局）「訪日外客数」

本件照会先：大阪本社 荒木秀之  
TEL: 06-7668-8805 mail: hd-araki@mri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。